

2つのデザイン方針に基づいた事業者からの提案例について

要求水準書		提案例
周辺環境との調和を図るデザイン		
1	隣接緑地と調和するよう、自然素材等を用いたデザイン	自然素材である木の格子を連想させる外装材を用いることで、周辺の緑地と色彩上の調和を図った。
2	住宅地の街並みに調和した陰影や装飾による繊細なデザイン	建物全体を覆う木格子のような外装材の陰影により、建物の輪郭を曖昧にし、建物の存在感を抑えた繊細なデザインとした。
3	建物全体で統一感を感じられるデザイン	木格子のような外装材で建物全体を覆い、建物内部の用途に応じた開口部を設け、地域に開かれた、統一感のある外観とした。
地域に親しまれるデザイン		
4	いつでも人の姿を感じる、地域に開かれたデザイン	見学者ルートを敷地南側に設け、新管理棟と共に開口部を多用することで、人の動きを建物外からも感じられる、明るく誰でも訪れやすい建物外観デザインとした。
5	清潔感が感じられ、愛着が湧くデザイン	温かみのある木格子のような外装材により愛着が湧く外観デザインとした。
6	優しさや温かみを感じるデザイン	自然素材のような色の外装材でやわらかく建物全体を包むことで温かみを感じるデザインとした。



出典:「龍谷ミュージアム」

出典:「SCHOOL CENTER LUCIE AUBRAC」
<http://www.archdaily.com>

参考図

本立面図はあくまで参考であり、事業者からの提案により実際建設される外観とは異なります。

